

降雪に対する農業用施設の管理技術対策について

平成28年11月22日
埼玉県農林部

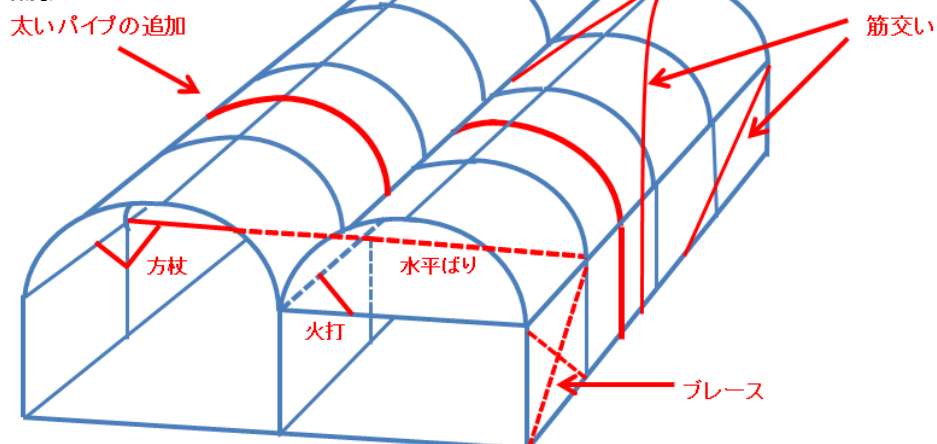
- 平成28年11月22日熊谷地方気象台発表の埼玉県気象情報によると、11月23日の夜遅くから24日にかけて、秩父地方を中心に、降雪が予想されています。
- 特に農業用施設は、過年度の降雪で歪みや損傷を受けている場合がありますので、以下の点検・対策を必ず行い、降雪に備えてください。

事前の対策

農業用ハウス

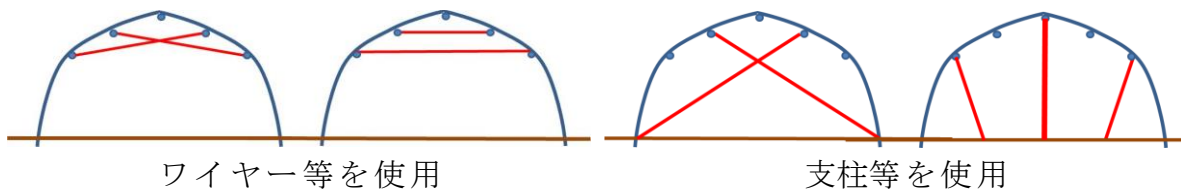
- 1 積雪による被覆資材のたわみが雪の滑落を妨げるため、適切な展張となるよう取付金具の調整等を行う。
- 2 被覆の外部に設置したネットや遮光資材は、雪の滑落を妨げるため撤去する。
- 3 ハウスの補強資材や固定部品にゆるみがないか点検する。
- 4 暖房機を点検するとともに、燃油残量を確認し必要に応じて補給する。
- 5 ヒートポンプは室外機が雪に埋まると機能しなくなるため、点検や除雪対策の準備を行う。
- 6 除雪作業により燃料パイプなどが損傷しないようカバー等で保護する。
- 7 積雪により負荷のかかる箇所に支柱や筋交い等で補強する。
- 8 融雪水が流入・湛水しないよう施設周辺に排水溝を設置する。
- 9 予め除雪計画を立て、除雪作業に支障となるものは移動させる。

＜ハウスの構造の補強＞

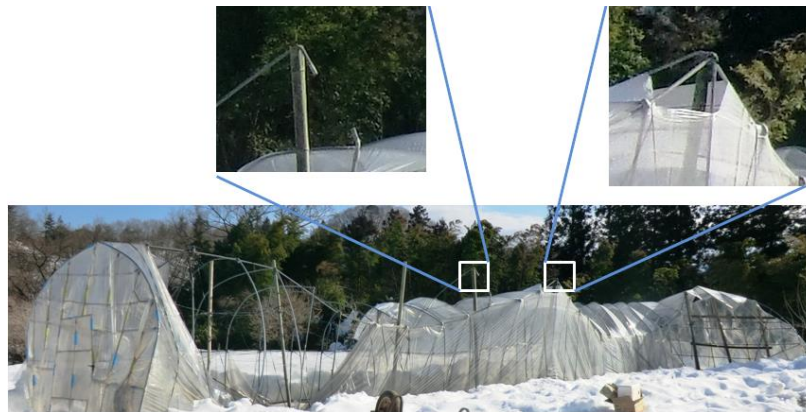


大雪が予想される場合は、緊急的な補強としてハウス内に支柱を取り付ける方法もあります。

<緊急的な補強例>



※補強は積雪の荷重を分散させることが重要です。下の写真のように、支柱だけでは荷重を点で支えるため、部材の強度を超える荷重には耐えられません。



補強の詳細は「大雪による園芸用ハウスの被害調査結果と対策」をご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/housuchousa.html>

降雪時の対策

降雪中、降雪後は人命最優先とし、大雪で施設倒壊が危惧される場合には、施設内には立ち入らない。

農業用ハウス

- 1 加温設備のあるハウスでは、カーテンを開け、暖房機を運転してハウス内の暖気を拡散し、屋根や谷部の融雪を促進する。
- 2 加温設備のないハウスでは、カーテンを開放し、地熱の放射により、融雪を促進する。
- 3 雪が積もったら、速やかに雪下ろしや除雪を行う。
- 4 ハウスサイドの積雪が多くなると、屋根の雪とつながり雪が落ちなくなるため、ハウスサイドの除雪を行ってから上部の雪を下ろす。
- 5 積雪が偏ると、荷重バランスが崩れ倒壊の危険が増すため、ハウスの両側から均等に除雪する。

- 6 除雪の際には、電気配線や燃料の配管を傷つけないよう注意する。
- 7 ヒートポンプは室外機が雪に埋まると機能しなくなるため、室外機周りの除雪を行う。
- 8 融雪水が流入・湛水しないよう施設やほ場周辺に排水溝を設置する。
- 9 施設の破損、倒壊等が生じ、被害が軽微であった場合には、早急に修復を行い、施設内温度の確保に努め、低温による栽培作物の生育障害・枯死等の被害を防止する。
- 10 一部損壊を受けた施設内の作物はトンネルやべたがけ等で被覆し、保温する。
- 11 積雪により停電が発生する恐れがあるため、電源や設備の状態に注意する。

御不明な点は、最寄りの農林振興センター農業支援部までお問合せください。